社会福祉法人友愛学園
広報誌　VOL. 38
発行日　令和３年８月20日
発行人　社会福祉法人　友愛学園
〒198-0001　東京都青梅市成木2-107
電　話　0428-74-5453
ＦＡＸ　0428-74-6906
http://www.yuaigakuen.or.jp/

見えないものを見えるように

理事長　河津英彦

コロナ禍で二度目の新年度を迎えた。理事長としては六月の末で四年目に入る。

入所施設は感染者が出たからと言って休園にはできない。この覚悟がすべての活動の前提になる。外部の人との交流は最小限にし、利用者同士のふれあいもユニット内に限定している。ワクチン接種は始まり、渋谷地区では成人の施設利用者とそれに当たる職員、青梅地区では六十五歳以上の入所施設利用者が最初の対象となった。広報誌が刷り上がるころには利用者も職員も希望者すべてに接種の見通しが立つことを願う。

社会全体は自粛生活や職を失うことによるストレスにさらされているが、福祉施設はなくならないし、日々の営みは継続している。

人としての幸せは、①見通しのつく生活（希望）②人との交流（愛）③意味のある活動（自己肯定感）が一つになることである。例年に比べ不自由であるが、その中でも職員は利用者の楽しみを保つ工夫をしており、ゲストを入れない行事や、人込みを避ける外出などを実施してきた。

今は六月。小椋佳の『六月の雨』には「そよ風は見えない。幸せも見えない。愛の姿も見えないけれど、見えない何かを求めながら……」という詞がある。幸せも愛も自己肯定感も目には見えない。感じとるものである。大切なものは見えないけれど「見える化」の努力はしたい。

養老孟司は、脳という「構造」は見えるが、心という「機能」は見えないという。「生活の質（ＱＯＬ）」という言葉もある。国民生活の向上で使われたが、福祉の世界では「サービスの質」とか「量から質へ」という文脈で使われている。「質」も目に見えない。

１９８２年度版の厚生白書はすでに社会福祉サービスの客観的評価基準の必要性を指摘していた。東京都老人総合研究所の冷水豊氏はアメリカからＰＡＳＳ３という知的障害施設評価基準を持ち帰っている。１９８６年に私は直接話を伺いコピーも頂いた。

その頃、私は、最重度の知的障害者施設である都立八王子福祉園で若手職員と勉強会をしていた。歩行訓練には飽き足らず「生活の質」をどう高めるかをテーマにした。具体的にはノーマライゼーションと施設のオープン化をベースにした利用者処遇と地域交流そして地域貢献である。当時の施設は閉鎖的であり、このような課題を議論することが職員を育て、加齢化と重度化が進む利用者環境を変えることと考えた。環境を変えることも質の変化である。思いを言語化し、報告書という形にした。

その後、地域福祉推進部長時代に手掛けたのが、東京都の福祉施設全体を通した第三者評価制度の構築である。２０００年に会議を立ち上げ、衛生局に異動した。

現在でも、待機児童対策が一息ついた保育業界では「保育の質」がテーマになり、手引書や事例集が作られている。知的障害の世界では「個別支援計画」がある。①「個別化」は、かけがえのない個人として利用者に向き合うソーシャルワークの原理である。②「支援方法」は経験と勘に頼らず「言語化」することにより「共通の理解」になる。③「計画化」は、行きあたりばったりでなく、時間軸の中で「いつまでに、何を達成する」という「目標設定」になる。④計画は利用者のために作成し「利用者の意思や主体性」の尊重は基本である。そのためにも保護者や後見人と話し合う。言語化はここでも重要な手段になる。

さらに、友愛学園が一年かけて作成したルーブリックという手法に基づく人事評価制度も評価基準の４段階を言葉で記述した。利用者支援に関する項目も８つ入っている。施設経営には様々な課題はあるが、大切なことの見える化は続けて行きたい。

年度の始まりにこの時代を考える

事務局長　内山　敏

僕は、長野の山間部で育ちました。東京都奥多摩町の隣に山梨県小菅村があります。僕より十歳上のこの村出身の居酒屋の主人と話をしたところ、生活環境がよく似ていました。小菅村をご存じの皆さんは、十歳違っていて生活環境が似ているということは、僕の育ったところがどれだけ山の中か想像できるかと思います。

今から45年から50年前の話になりますが、近所に5～6歳は年が離れたと思われる聴覚障害の男性がいました。彼は学校に行っている様子はありませんでした。道で会うと「あ、あ」「ん、ん」と何か伝えるように指を指したりして話しかけてきました。何を伝えたいのか全くわかりませんでしたが、彼は満足げな笑みを浮かべていました。この彼は、近所の家に入って反社会的行為を幾度となくしていましたが、「話もできないし、知恵遅れだからしょうがない」と親は話をしていました。だからといって遠ざけるでもなく、排除するでもなく、近所の一員として極自然に溶け込んで生活をしていました。もうひとり、保育園から中学校まで一緒だった清水君という彼は、読み書きがほとんどできず、少し舌足らずな話し方をする彼でした。彼も前述の男性同様に、クラスの中でのけ者にされることもなく、当たり前に皆と一緒に遊んでいました。中学校のときは、ひとりの級友が付きっきりで彼に親身になって勉強を教えていたのを記憶しています。中学校の卒業から二十年くらいを経て、同窓会がありました。彼もその同窓会に出席していました。はにかんだような表情でやはり少し舌足らずな話し方で会社員として働いていることを話してくれました。

今の社会は、自分と異なる者に敵意をあらわにし、排除するという行為に鈍感になっていると感じます。その昔はそれぞれの人の身近なところでもっとおおらかに他人を包み込む社会が存在していたように思います。その意味では社会の有り様そのものが後退しているのかもしれません。今の社会を作っているのは同じ時代に生きる私たちであり、その集合体が今の空気感を醸し出していると考えれば、それを変えることができるのも私たち。

幼児の応答的保育ではありませんが、人は人との一方通行でない関わりの中で人としてより良く変わっていけるのであり、同時に社会もより良く変わっていけるのだと思います。

令和三年度 法人役員（敬称略）

理事長　河津　英彦
理　事　山川　勇
　　板垣　修
　　山本　以文
　　松田　京子
　　内山　敏
監　事　南部　幸久
　　福元　與
参　与　柘植　吉治
評議員　大道　正男
　　大倉十彌也
　　島崎ツル子
　　佐藤登美子
　　榎戸　俊行
　　井原　哲人
　　榎戸　淳
運営協議会委員　宿谷　敏久
　　石田健太郎
　　森住　一美
　　伊藤　重信
　　三上　優
　　堀口　智子
　　小畑　政行
　　榎戸　俊行
　　村田　英子
第三者委員

執行体制

法人本部　内山　敏
事務局長　岡部　修
事務長　安達　美加
事務次長
児童部　渡部　光行
施設長　石川　淳
副施設長
成人部　宮崎　啓太
施設長　矢野　麻衣
副施設長
青梅福祉作業所　福田　和弘
所長　白井　秀明
副所長
はぁとぴあ原宿　平井　眞琴
施設長　板澤　純子
副施設長
代々木の杜　高野めぐみ
副施設長
渋谷区くるるえびす　畑　賢史
副施設長
青梅市障害者就労センター　中村　俊久
所長

令和３年度　事業計画等について

事務局長　内山　敏

法人本部

昨年度は、コロナウイルスに翻弄されました。今年度は、感染防止に努めながら、各事業所において創意工夫により、楽しさが感じられるサービス提供に努めます。

中期的課題として幹部職の世代交代が控えています。研修部を中心に次世代を担う人材育成に注力します。

児童部

児童施設は通過施設であることからも今年度、人員配置の見直しとあわせて配置できることになったソーシャルワーカーを配置し、より円滑な進路支援に取り組んでいきます。また、感染予防を徹底するために介助員を配置して清潔な生活空間の維持に努めます。

友愛こどもクラブとことこ

これまで同様、遊びを通して楽しく学び、情操を豊かに成長していくことをコンセプトに療育の視点を大切に質の向上に努めます。また、報酬改定によって厳しい経営状況に置かれますが、運営基準を遵守して質の高い健全な運営を堅持していきます。

成人部

高齢化・虚弱化による摂食嚥下の課題に取り組んできていましたが、「日常生活への潤い」の観点から、食事の内容等について委託業者と定期的に協議を行いより魅力あるものにしていきます。生活への潤いということでは、コロナの影響から活動制限の中、自分らしく生きがいをもって生活できるサービス提供に努めます。

生活介護では、工房ＹＵＡＩのホームページを開設、積極的に情報発信を行っていきます。

グループホーム

昨年度、サテライト型住居を開所し、一人暮らしに向けた支援を開始しました。今年度は、アパートメント型のグループホームの開所を目指していきます。

相談支援事業・おおぞら

交通の利便性のよい市内中心地への事業所の移転について検討をします。また、相談支援業務の高い専門性を事業所として担保し、特にニーズの高まりがある計画相談にしっかりと対処していけるように常勤専従職員の配置についても検討をします。

青梅福祉作業所

都立時代から数えて、50年を迎えます。これを機に、道路に面した壁面に立体文字の看板を記念モニュメントとして設置します。コロナ禍のため、利用者を主役とした落成式を記念親睦行事として行います。

作業では、車両の購入により、新たな作業を視野に工賃の増額を目指します。

青梅市障害者就労支援センター

コロナの影響から、相談業務では積極的にオンラインなどを活用して対応していきます。また、一昨年度から開始した青梅市役所庁舎内実習もコロナの影響で昨年度は一度も実施することができませんでした。今年度は、市と相談をしながら実施を目指します。

はぁとぴあ原宿

昨年度、コロナウイルスのクラスターを経験したことから、感染予防に努め、一人ひとりの健康維持を重要課題と捉えて支援を行います。また、昨年度、製菓活動にパンの試作を加えましたが、その可能性を追求します。

児童発達支援では、代々木の杜相談支援、保育所等訪問支援と連携して次の支援へと丁寧につないでいきます。日中一時支援では、小学生から高校生まで幅広い年齢に考慮し、安全で安心できる活動の提供に努めます。

代々木の杜

丁寧な療育・支援が必要な児童が増えており、年度初めに一日の定員が埋まる状況にあります。保護者との情報共有に努め、連携しながら療育活動を進めていきます。また、障害児相談支援・保育所等訪問支援とも必要に応じて情報共有を図り、支援に活かしていきます。

渋谷区くるるえびす

今年度、渋谷区より運営委託を受けた恵比寿西二丁目複合施設に開設となった生活介護事業所です。これから利用者とともに作り上げていくことになります。

利用者の好奇心、やりがいを発掘し、その人らしい生き方を探求していきます。複合施設ですので、建物内の福祉施設、階上の住民との交流の機会を設定するなどして地域や人とのつながりを育てていきます。

今年もよろしく

お願いいたします

【令和３年度資金収支予算書】

（単位：円）

勘定科目		拠点区分									法人合計
		本部	児童部	成人部	はぁとぴあ原宿	代々木の杜ピアキッズ	渋谷区くるるえびす	青梅福祉作業所	すてっぷ小中尾	青梅市障害者就労支援センター	
事業活動収支	収入計	2,414,000	252,770,000	519,457,000	444,923,000	93,742,000	107,216,000	135,651,000	86,995,000	31,637,000	1,674,805,000
	支出計	18,874,000	240,993,167	447,125,000	437,887,000	91,946,000	106,059,000	123,347,000	67,732,000	31,327,000	1,565,290,167
	資金収支差額	△ 16,460,000	11,776,833	72,332,000	7,036,000	1,796,000	1,157,000	12,304,000	19,263,000	310,000	109,514,833
施設整備等収支	収入計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	支出計	5,444,000	9,382,000	24,325,000	2,128,000	307,000	0	7,956,000	288,000	0	49,830,000
	資金収支差額	△ 5,444,000	△ 9,382,000	△ 24,325,000	△ 2,128,000	△ 307,000	0	△ 7,956,000	△ 288,000	0	△ 49,830,000
その他の活動収支	収入計	25,704,000	0	0	159,000	39,000	24,000	0	0	12,000	25,938,000
	支出計	234,000	1,830,000	23,389,000	5,067,000	1,528,000	1,181,000	3,700,000	7,405,000	322,000	44,656,000
	資金収支差額	25,470,000	△ 1,830,000	△ 23,389,000	△ 4,908,000	△ 1,489,000	△ 1,157,000	△ 3,700,000	△ 7,405,000	△ 310,000	△ 18,718,000
予備費支出		200,000	500,000	500,000	0	0	0	500,000	200,000	0	1,900,000
当期資金収支差額		3,366,000	64,833	24,118,000	0	0	0	148,000	11,370,000	0	39,066,833
前期末払資金残高		8,950,054	60,151,929	170,943,023	0	0	0	33,940,221	54,369,244	0	328,354,471
当期末支払資金残高		12,316,054	60,216,762	195,061,023	0	0	0	34,088,221	65,739,244	0	367,421,304

【事業活動内訳表】 令和２年４月１日～令和３年３月31日

（単位：円）

勘定科目		社会福祉事業 ・本部・児童部・成人部 ・すてっぷ小中尾 ・青梅福祉作業所 ・はぁとぴあ原宿・代々木の杜	公益事業 青梅市障害者就労支援センター	内部取引消去	法人合計
サービス活動	サービス活動収益計	1,483,510,490	31,173,000	0	1,514,683,490
	サービス活動費用計	1,392,232,605	30,227,905	0	1,422,460,510
	サービス活動増減差額	91,277,885	945,095	0	92,222,980
サービス活動外	サービス活動外収益計	4,882,914	51	0	4,882,965
	サービス活動外費用計	1,270,580	0	0	1,270,580
	サービス活動外増減差額	3,612,334	51	0	3,612,385
経常増減差額		94,890,219	945,146	0	95,835,365
特別増減	特別収益計	1,889,246	0	△ 954,880	934,366
	特別費用計	3,815,374	954,880	△ 954,880	3,815,374
	特別増減差額	△ 1,926,128	△ 954,880	0	△ 2,881,008
繰越活動増減差額	当期活動増減差額	92,964,091	△ 9,734	0	92,954,357
	前期繰越活動増減差額	449,226,151	△ 772,133	0	448,454,018
	当期末繰越活動増減差額	542,190,242	△ 781,867	0	541,408,375
	基本金取崩額	0	0	0	0
	その他積立金取崩額	0	0	0	0
	その他積立金積立額	106,140,000	0	0	106,140,000
	次期繰越活動増減差額	436,050,242	△ 781,867	0	435,268,375

【貸借対照表】 令和３年３月31日現在

（単位：円）

勘定科目		社会福祉事業	公益事業	内部取引消去	法人合計
資産	流動資産	449,110,275	1,840,547	△ 954,829	449,995,993
	固定資産	2,096,841,842	1,805,960	0	2,098,647,802
	基本財産	689,464,993	0	0	689,464,993
	その他の固定資産	1,407,376,849	1,805,960	0	1,409,182,809
	資産の部合計	2,545,952,117	3,646,507	△ 954,829	2,548,643,795
負債	流動負債	154,082,286	2,622,414	△ 954,829	155,749,871
	固定負債	114,149,946	1,805,960	0	115,955,906
	負債の部合計	268,232,232	4,428,374	△ 954,829	271,705,777
純資産	基本金	253,204,928	0	0	253,204,928
	国庫補助金等特別積立金	368,614,715	0	0	368,614,715
	その他の積立金	1,219,850,000	0	0	1,219,850,000
	次期繰越活動増減差額	436,050,242	△ 781,867	0	435,268,375
	（うち当期活動増減差額）	92,964,091	△ 9,734	0	92,954,357
	純資産の部合計	2,277,719,885	△ 781,867	0	2,276,938,018
負債及び純資産の部合計		2,545,952,117	3,646,507	△ 954,829	2,548,643,795

児童部

新型コロナウイルス影響下での新年度

令和三年度がスタートしました。令和二年度の春先をあらためて振り返ると四月から五月は緊急事態宣言発令に伴い、学校は臨時休校、六月は分散登校と本来の児童の生活が送れなかったことが思い出されます。

新年度、東京都には緊急事態宣言が発令され、さまざまな制約はありますが、児童は学校には登校ができています。この一年で、児童はマスクをすることに慣れ、一日の中で手指消毒を何度もすることが自然になっています。しかし、アルコールで荒れてしまっている児童の手のひらを見ると切なさを感じます。

消防写生会で描いたエール

入所している児童が、笑顔で元気に毎日学校に登校できる生活をどのように守っていくのかが、今年度の大きな、そして重要な課題になります。感染リスクを減らすと言葉で言う事は容易いですが、そうすると児童にさまざまな経験をしてもらい、成長を促す機会・場面に制限をかけなくてはならなくなります。

今年度の児童部では、職員はこの矛盾するテーマに真摯に向き合い、制約の多い中、児童の成長を促すためどのような支援ができるのかを考え、実行していく一年になると考えています。

（施設長　渡部光行）

友愛こどもクラブとことこ

四月、例年同様に児童が高等部を卒業、同時にとことこを巣立っていきました。四月に主任と児童発達支援管理者の交代もあり、違った雰囲気の新年度を迎えました。

今まで行ってきた支援を大切にしながら、あらためて、個別活動、集団活動の内容を見直し、児童が楽しみながらも療育プログラムに参加できるよう、そして、学校卒業後に繋がるように取り組んでいきたいと考えています。創作活動や余暇活動では、児童たちが他者との関わり方を意識できるように、また、個々の児童や年齢に合わせての身辺自立ができるよう、声かけや見守りの仕方にも職員が工夫し、関わっていけたらと思っています。

新型コロナウイルス感染予防をしながら、新たな『とことこ』での療育を確立していけるよう努めていければと思います。

（主任　安藤真希）

成人部

令和三年度がスタートしました。この一年、事業所を取り巻く環境が大きく変化する中で、私たち支援者は利用者の幸せ、掲げる事業所目標に向けて必要な変化、改善を継続していく必要を強く感じています。

高齢化する利用者の生活の質と安全を守るため、昨年度十月には、ソフト食を再開しました。また、今年度上半期中には、男性介護ユニットに見守りシステムの導入を図る予定です。

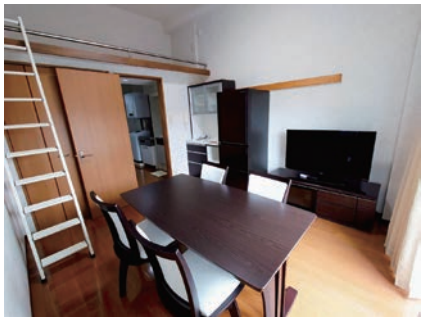
コロナ禍では、職員配置のあり方についても考えさせられました。家族や周辺者の体調不良の際には、出勤停止を基本としていますが、十分な支援体制を確保するために職員増を行っています。有事の際にも対応できる体制づくりに向け、今年度も課題や変化する環境に速やかに対応していきたいと考えております。

一人暮らしに向けての支援

成人部地域支援では、四か所のグループホームと一か所のサテライト型グループホームの運営を行っています。今回、七月一日付けでアパートメント型グループホーム（ユニット増）を開設することになりました。新しいユニットは、準通過型のグループホームとして運営し、将来一人暮らしを希望する利用者の訓練、生活の場として期待しています。

計画の始まりは利用者からの声でした。グループホームには、18歳から71歳の方々が生活をしていますが、入居後三年程度が経過した児童養護施設等からの入居者数名から、「将来は一人暮らしがしたい、でも有期限のサテライト型住居とかは心配」との訴えから、無期限での支援の場づくりに向けて動きだしました。物件の条件は、駅から近いこと、商店などの利便性、十分な居住空間と大家さんからの理解を得られることでした。前年の九月に法人に提案、物件探しに半年以上かけ、ようやくスタートを迎えます。

健康管理、金銭管理や就業の定着、掃除や調理などのＩＡＤＬ訓練など、支援することは沢山ありますが、既に始まった家具やカーテン選びを嬉々とした表情で行う利用者の姿を見ると、今後の展開に大いに期待しています。



（施設長　宮崎啓太）

はぁとぴあ原宿

はぁとぴあキッズ（児童）

新年度に入ってからも、緊急事態宣言が発令され、いつも子どもたちと遊びに行っている場所が休みになってしまいました。

プールセラピーを行う予定だった区立プールも休館となり、講師の先生が代替えで「親子ヨガ」を行ってくれています。リラックスできる親子の時間はプールに負けない効果が見られます。

代々木のポニー公園も休園でしたが、六月からは再開。梅雨入り前の良い天気の日にポニーに乗りに行きました。

穏やかなポニーの身体に触れたり、背中に乗ったり人参をあげたり。動物とふれあうと、ことばではなく通じるものがあります。いつもことばに頼ってコミュニケーションを取っている大人にとっても、ゆっくりポニーとふれあう時間は大切な時間であると考えています。

（施設長　平井眞琴）

はぁとぴあ原宿（成人）

生活介護の活動の一部とユニットの余暇時間の様子をお伝えします。

玄関先に毎日作品と作物を出しています。エコバッグの刺繍はより特徴あるものになってきました。屋上の玉ねぎは今年も二千五百個の収穫で、お得意様にも好評です。

余暇では食堂でお菓子作りをしたり、屋上で水鉄砲をしたり、近隣で好きなものを購入したりしています。

皆、楽しみを上手に見つけています。

（副施設長　板澤純子）

代々木の杜ピア・キッズ

四月から十九名のお子さんたちが新たに通所を開始し、にぎやかに新年度がスタートしました。

マスクを外して会食することにより新型コロナウイルス感染症の感染リスクが高まるとされていますが、お子さんたちは一日の活動の中で、昼食（ご家族が作ってくれたお弁当）の時間をとても楽しみにしています。そのため、ピア・キッズでは飛沫を防ぎつつ、お友だちと顔を見ながら会食ができるパーテーションを作成しました。お子さんたちは目の前に置かれた物体に少し違和感を持ちつつも、以前と変わらずに楽しく会食してくれています。

これからもご家族にご理解・ご協力をいただきながら、感染予防と療育のバランスを考えて、お子さんたちが安心・安全に過ごせるような環境づくりに努めていきます。

（副施設長　高野めぐみ）

職員はマスク・手袋・エプロンを着用して食事の補助をします

渋谷区くるるえびす

いよいよ四月より開所となり、新たな友愛学園の1ページを『彩る』ことになりました。アート、ダンス、園芸を中心に活動をしております。『くるる』とはフランス語のクルール（彩り、色彩）を語源とし、利用される方たちの個性が色鮮やかに発揮できるような場所にしたいと思っております。

開所してまだ日も浅いところではありますが、今回は初々しい活動の様子をお伝えできればと思います。

今後は、複合施設ということで併設されている保育園や高齢者施設と交流も含めて活動の幅を少しずつ広げて地域に根ざした施設を目指していきます。（副施設長　畑　賢史）

青梅福祉作業所

地域で暮らすこと
～ワクチン接種から～

当作業所は七市二町から利用者の方たちが通っています。新型コロナのワクチン接種では、その取り組みが区市町村ごとにバラバラです。予約の仕方も同様で、電話での申し込みが難しいため、パソコンから週一回の予約日に競って入力しなければならないところもあります。

六十五歳以上の予約においても対象利用者の内、二世帯が、ご本人に代わって予約してくれる家族がいないか、遠方で対応が難しい状況でした。こういう場合は相談支援事業所も役所も支援できないのが現実です。

そこで、当作業所では予約の支援を行いましたが、六十四歳以下の接種においては、その対象者数も多く、グループホームも含めてアンケート調査を実施し、対応策を講じていくことになっています。

知的障害のある方たちは、情報の読み取りができなかったり、間違えてしまったり、パソコンやスマホなどを臨機応変に活用することも難しい人たちがほとんどです。ところがテレビでは連日ワクチン接種の報道があり、繰り返し注射のシーンが映し出されています。注射のシーンは一日何回みるでしょうか、すっかりおぼえてしまっている人も少なくありません。

コロナ禍は、災害と同じような課題点をゆっくりと示してくれています。利用者の皆さんが作業所にいない時間帯、夕方・夜間・早朝・祝休日では、当作業所は利用者に対してはほとんど無力です。先述のアンケート調査においてワクチン接種を作業所で実施してほしいという希望がほとんどでした。接種会場でご本人に対する支援に不安がある方、そもそも家族の言う事を聞いてくれないという現実、当作業所での接種であれば、ご本人たちが一番安心できます。

障害福祉分野で防災関連への施策は入所施設やグループホームなどの生活支援事業所が中心になっていることがほとんどです。しかし、その何倍もの人が地域で暮らしているのです。

区市町村別の施策には、地域で暮らしている方たちを日々支えている日中活動系の事業所が、普段からかかわりを持っていく必要を感じさせられました。防災においても、コロナ禍のようなパンデミックにおいても、地域に住む障害のある方たちやご家族を守る使命が日中系の事業所にはあるからです。

（所長　福田和弘）

青梅市障害者就労支援センター

教訓となったこと

「新型コロナウイルス」という言葉を聞くこと自体食傷気味になっている人も多いとは思いますが、昨年度に関しては、これを抜きにして状況を記すことはできません。

ウイルスへの対策、市や関係機関からの支援引継ぎ依頼の増加などもあり、より効果的かつ実効性のある運営が求められた一年間でした。

従来までは対面面談や会社訪問等があたりまえであり、それ以外の方法についての発想がなかったのですが、コロナをきっかけに、オンラインの活用など新たな支援方法を取り入れる契機になりました。

そのような状況の中、昨年度の新規就職者は三十九名、離職者は十七名でいずれも前年度を若干下回りました。幸いなことに、コロナによる雇止めや、事業所の業績悪化等による退職勧奨などは、予想より少なかったことに少し安心したところです。

しかし、学卒者が一度も出社できずに丸一年以上自宅待機となっているケースもあり、憂慮しているところです。

このように自宅待機、在宅勤務、変則勤務、時差出勤などによるリズムの変化により不調に陥ってしまい、再三にわたり相談される方も散見されました。

今年度の力点

今年度も四ケ月余が経過をしていますが、前述したように支援件数は増加傾向にあり、ニーズも多種多様になってきています。支援の増加はその分障害者就労が活性化されていることの証であり、喜ばしいことなのですが、就労支援センターは定員も卒業もありません。さらに職員の配置基準もないのが現状です。

しかし、このような時期だからこそより繊細な支援が求められるとともに、隠れている就職希望者を探し出すには、今まであまりできていなかった、作業所等に通所されている就職希望者の掘り起こしが必要になります。また、地域の企業への障害者就労に対する理解促進を進めることも重要です。

このことを実現するために、来年度における「地域開拓促進コーディネーター」の配置について、今後青梅市と十分な協議を重ねてまいります。

（所長　中村俊久）

法人 報告

辞令交付式・新規採用職員

令和三年度の辞令交付式が四月一日（木）におこなわれました。今年度は各事業所において、主任をはじめとする指導職員の昇任や異動なども多くありました。また、新規採用職員も左記にあるように、各拠点で十五名の採用がありました。

当日は文字通り、「晴れやかな」陽気であったこと、そしてコロナ対策もあわせて、予定になかった青空の下、新規採用職員の集合写真を撮りました。写真を撮る瞬間だけマスクを外すなど、新社会人として採用された職員には、ある意味思い出に残る一日となったのではないでしょうか。

新規採用職員を紹介します。どうぞよろしくお願い致します。

児童部
児童指導員　鳥巣　結衣
成人部
生活支援員　森田　勝人
同　岡田　淳
同　長塚　暢子
同　杉浦　将輝
同　関口　美咲
はぁとぴあ原宿
生活支援員　谷口　菜菜
同　大塚　洋子
保育士　岸　瑛梨奈
児童指導員　和田　陽子
代々木の杜ピア・キッズ
児童指導員　森下　章子
同　小野　椋琴
言語聴覚士　福田　佳那子
渋谷区くるるえびす
生活支援員　伊藤　颯太
同　益戸　董

法人 報告

新任職員研修

新規採用職員を対象とした階層別研修である「新任職員研修」が四月一日と二日、法人本部でおこなわれました。研修時間など感染対策も考慮されながら、予定通り二日間の研修を終えました。これから法人職員として、法人理念とそれぞれの心構えを胸に各拠点で利用者の幸せのために尽力を注ぎます。

法人 報告

主任研修

法人階層別研修である主任研修を七月八日（木）に青梅福祉作業所にて行いました。今年度の主任研修は全三回の複数開催で実施されます。今回はその一回目となります。法人の次世代を担う主任の立場として、グループワークを中心に「知り合う」「共に作り出す」「提案する」をテーマでおこなわれています。

法人 案内

友愛学園祭中止のお知らせ

令和三年度友愛学園祭は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、開催を中止することに致しました。

地域や関係者の皆様と共に楽しい時間が過ごせることを楽しみにしていましたが残念でなりません。来年こそは、皆様と笑顔で集えることを楽しみにしております。

法人 報告

PCR集中検査

厚生労働省による「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針の集中的実施計画」に基づき、職員を対象としたPCR検査を週に一度のペースで行っています。東京都より、今後十月まで実施が継続されることが示されました。検査が実施されてからこれまでの期間、検査結果で感染の報告はありません。引き続き法人全体で感染予防対策に注力していきます。

法人 報告

理事会・評議員会の開催

成人部多目的ホールにおいて、六月五日（土）に理事会が、六月二十日（日）に定時評議員会が開催されました。

理事会では、令和二年度事業報告及び決算、次期役員、評議員の選任に関する事項等、全十議案が審議に付され、質疑応答の後、決議されました。

また、六月二十日の評議員会の後、臨時理事会が開催され河津理事長が再任されました。

編集後記

編集作業をおこなっている今、コロナ感染が収まらない状況でオリンピック期間が迫っています。オリンピックの起源を紐解くと諸説ある中、一説では紀元前八世紀ごろ慢性的に続く争いと感染症を鎮めるため、王が神のお告げにより始めたとも言われているそうです。近代オリンピックになり目的こそ違うけれど、そんな歴史に思いを馳せながら、次の号が出るころにはコロナは終息に向かっていることを願います。